

## [目次]

2018年3月号

<b>特別記事</b>	法人化実行委員会より(Ⅱ)～第1回理事会報告ほか～	縣 秀彦 ほか	2
<b>論文</b>	日本の大学における天文学シラバス調査 ～教養教育課程の現状～	鴈野重之、縣秀彦 Lina Canas	4
<b>投稿</b>	成蹊中学高等学校天文台の20年 ～学校天文台の可能性の探求～	宮下 敦	16
	ペルーとの遠隔授業実践報告 ～ペルーの子どもたちに最先端の科学を届ける～	矢治健太郎、辻埜太一 梶田康生	26
	リスクアセスメントのススメ ～「事故に学ぶ」では遅い～	絵堂 晃、松尾 厚	33
<b>連載</b>	社会教育施設について考える(WG報告) ～第9回:公開天文台における天体解説技術の世代進化とは～ ～時代と共に変わる公開天文台の存在意義とその使命～	宮本孝志、 日本公開天文台協会WG 生涯学習施設支援WG	40
<b>報告</b>	天文教育論文アーカイブ～2017～	天文教育論文アーカイブ検討WG	51
<b>情報コーナー</b>	2018年度 一般社団法人 日本天文教育普及研究会 代議員および会長候補者・監事候補者選挙公示	選挙管理委員長	53
	2018年天文教育普及研究会年会のお知らせ～第二報～	年会実行委員長	56
	最近出版された天文関連書	編集委員会	58
	事務局からのお知らせ	事務局	59

## 編集部より

この号が皆様のお手元に届く頃には、千葉で行われる天文学会春季年会、福岡で行われる世界天文コミュニケーション会議(CAP2018)も無事終わっていることと思います。会員の皆様も多数出席されることと思います。様々な取り組みを知り、直接会って話をして、知り合いになって。実際に顔を合わせることで、このような会は、本当に刺激的で有意義なものです。CAPに伴って、様々なイベントも企画されているようです。ガリレオ・ティーチャー・トレーニング・プロジェクト(GTTP)が三鷹の国立天文台と鹿児島大学で実施されま

す。私は鹿児島島に行ってくる予定です。どんな話が聞けるのか、どんな体験ができるのか、またどんな方と出会えるのか大変楽しみです。また、鹿児島大学では、CAP後に国内外のコミュニケーターを招いて天文教育研究会が企画されています。こちらは私は参加できませんが大変魅力的です。

今年の桜の開花は例年並か、すこし早まること。九州では3月中には満開になりそうです。世界中からいらっしやる参加者にちょうど楽しんで貰えそうです。

2018年3月 編集委員長 松本直記